

4年生への応援メッセージ

4年生担任 佐藤 祐佳
担任補佐 河原田 康貴



秋の訪れとともに穏やかに過ごしやすいなってきました。皆さんの心は穏やかですか？4月から就職活動や卒業論文・国家試験に一生懸命に取り組まれていると思います。国家試験に向けては、後半戦を迎えようとしています。心と体のバランスを図りながら、1人ひとりの目標に向かって、メリハリをつけて頑張っていきましょう。ここぞっ！という力を持っている皆さんです。必ず目標は達成できると確信しています。目標に向かって取り組んでいくなかで、不安になったり、くじけそうな時は、私たちを尋ねてください。みなさんが「大丈夫だ！」と笑顔になれるように元気と勇気をお届けしたいと思います。4年生のみなさん、自分を信じて、未来に向けて日々を大切に過ごしてください。

担任 佐藤 祐佳先生 担任補佐 河原田 康貴先生

新任教員の紹介

基礎看護学 助教 山田 泰子
これまで総合病院の看護師や海外での公衆衛生の活動等を経験してきました。看護について、学生の皆さんと一緒に考え、成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

成人看護学 助教 石橋 秋奈
Olá! Como vai? 専門はグローバルヘルスと周手術期看護です。みなさんと一緒に楽しく学んでいきたいと思ひます。ぜひ気軽に声をかけてください! よろしくお願ひします。

成人看護学 助教 池上 明由美
急性期看護の実習や演習を通してよりよい看護について考え学び、学生のみなさんと共に成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

在宅看護学 助教 森永 朗子
住み慣れた場所で自分らしく療養する人を支える為の看護について、皆さんと考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

地域看護学 助教 小畠 一将
これまで総合病院、市役所で勤務してきました。皆さんと地域での保健活動について学びを深めていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



後列左から：森永助教、山田助教、池上助教
前列左から：石橋助教、小畠助教

寄付のお願い

「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」への寄付のお願い

2021年3月から、看護学教育の充実・振興を目的とした「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」を創設しました。皆様からのご支援により更なる看護学科の教育の充実を図りたいと考えております。

詳しくは本学HPをご覧ください。下記のQRコードをご参照ください。また、ご寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)の対象となっております。

久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金へ、皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

寄付金額 1口 1万円 1口以上

問合せ先 久留米大学医学部事務部 看護学科事務室
電話0942-31-7714




編集後記

皆さん、今回ののはなみずきはいかがだったでしょうか。皆様からのご協力をいただき、今回も無事にはなみずきを発行することができました。はなみずきを通して、看護学科の学生が充実した学生生活を送ることができていることを知っていただけたら嬉しいです。これから、演習や実習、国家試験勉強など盛りだくさんの日々ですが、楽しみつつ共に頑張っていきたいと思います。

2022年度 学科通信委員

1年生 阿部 美咲 大谷 莉未 吳 采瞳	2年生 坂田 菜夏 窪山 日菜 中島 かりん	3年生 小濱 千尋 及川 千穂 佐々木 七海	4年生 岸田 龍世 桐村 明莉 末吉 友香
-----------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------



看護学科通信 はなみずき 第60号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミテイラー地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

後援会会長挨拶

後援会会長 田中 洋子

新入生、在校生の皆さん、入学・新学期が始まり半年が過ぎました。いまだ続くコロナ禍の中、少しずつ規制緩和に向かい学校生活においても感染対策を講じて対面授業も始まり、これからと思っていた矢先、今現在も変異しながら感染拡大を繰り返しています。

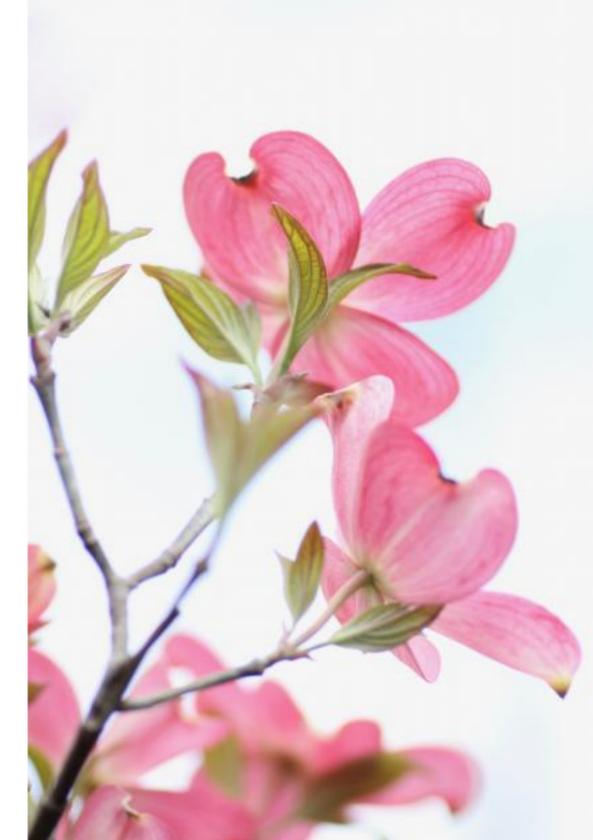
医療現場におきましても、収束の見えない不安と感染のリスクの中、皆さんの先輩にあたる看護師の方々は、日々、懸命に患者さんに寄り添っていらっしゃいます。学生の皆さんもこの不安の中、迷う事や悩む事もあるかもしれませんが、同じ夢を追う仲間と支え合いながら、時には先生方の力を借りて笑顔で日々学校生活を過ごして下さい。

これからも、感染予防に十分気を付けて健康に留意し日々、笑顔でお過ごし下さい。

後援会総会報告 後援会予算

令和4年度の看護学科後援会総会が6月18日(土)に開催されました。総会での承認事項は次の通りです。

1. 令和4年度の後援会役員は、2年生以上の役員はそのまま、1年生からは新たに3名の役員が選出され、計12名が承認されました。また、会長に田中洋子様(3年)、副会長に大中沙織様(3年)・古賀剛様(2年)、監事に三橋幸恵様(3年)・河野恵美子様(2年)が承認されました。




2022年度 2年生 戴帽式

1年生

入学して | O.R

今年4月、私は、これから始まる学校生活への期待と不安を胸に久留米大学医学部看護学科に入学しました。しかし、そんな私の不安は、学校生活が始まるとすぐに消えました。現在、私は、勉強に部活動に遊びにと充実した大学生活を過ごしています。久留米大学には、本当の病室同様の実習室や、たくさんの医学書が置かれている医学図書館があり、自主的に学習しやすい環境です。この4年間で幅広い医療の知識と様々な経験を積んで実践力のある看護師になりたいです。



生活援助技術 | K.H

生活援助技術Iの授業を通して、私たちは、看護師を目指しているのだということを改めて強く意識することができました。ベッドメイキングから始まり、いろいろなケア方法を学びました。最初は、ケアの手順を覚えることに一生懸命になっていましたが、今はグループで一人の患者さんに対してどのような看護を行う必要があるのかを考え、計画するところまでできるようになりました。実技試験前も、友達と互いに教えあいながら練習を行うことができました。これからも、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨しながら頑張っていこうと思います。



久留米絨の現地実習を通して | K.K

「久留米大学の理念と歴史」の授業で、久留米絨工房へ行かせてもらいました。講義の中で、藍は見た目が綺麗なだけでなく健康的なものであることや、藍染の奥深さを知りました。実際に機織りをして、なかなか思うように織ることが出来ず、難しさを肌で感じる事ができました。生葉染めの体験では、染めたてのエメラルドグリーンのような色から時間が経つと青に近い色に変わっていく過程を見ることができ、どちらの色も素敵で、何十年も受け継がれる良さが分かりました。現地実習を終えて、久留米絨の良さを知ると共に、久留米市の地元愛の強さも知ることができました。私も地元を大切にして、久留米市についてもこれからもっと知っていききたいと思います。



2年生

戴帽式を終えて | Y.M

今年の6月、まだまだ新型コロナウイルスの影響で大変な時期に、2年生116名が無事戴帽式を終えることができました。ナースキャップをいただいた時は、改めて看護師を目指す者としての責任と重みを自覚することが出来ました。嬉しい気持ちと同時に、今後始まる実習に向けても気持ちが引き締まりました。これから、嬉しいことや辛いことが沢山あると思いますが、精一杯努力し諦めずに学び続け、患者さんに信頼される看護師になりたいです。実習や勉強で辛くなった時は、この日を思い出し、初心に戻って1歩1歩成長していきたいです。そして、ご指導いただく先生方の力をお借りし、同じ道を志す116名の仲間と協力し看護師になれるようにこれからの生活を無駄にすることなく励んでいきたいです。



解剖学実習を終えて | H.M

4月から約3カ月に渡った解剖学実習では、1年次に講義で学んだ知識と、実際に御献体を観察したり触れたりすることで学んだ情報を結びつけ、人体の構造についての理解を深めることができました。非常に、貴重で有意義な実習であったと感じています。そして改めて、私達に学びの機会を与えて下さった御献体や御遺族への敬意と感謝を忘れず、この経験を糧としてより良い医療従事者となるよう更に勉強に励み努力したいと思います。



生活援助実習Iを終えて | M.O

今年の6月、生活援助実習Iを行いました。学内実習では、実習先の診療科に合わせた事例の課題に取り組みました。患者一人一人にあった日常生活の援助をグループで実践し、より良い療養環境について考えることが出来ました。病院実習では、学内実習での学びを活かし、現場の看護師が行う患者の安全・安心のための動きについて学ぶことができました。新型コロナウイルスによる影響で、実習の開始時期が延期となりましたが、1年次では無かった知識も増えた状態で実習に臨むことができたため、とても充実した実習となったと実感しています。



3年生

赤ちゃん先生を通して感じたこと | T.R

小児療養生活支援論の授業の中で、「赤ちゃん先生」という授業を受けました。ZOOMを通して5つのご家庭から、画面越しに赤ちゃんに接し子育て中のお母さんのお話を伺いました。赤ちゃんをよく観察し、質問することで月齢を当てたり、お母さんの普段の生活を教えていただきました。その中で、赤ちゃんとお母さんのリアルな生活を垣間見て、多胎育児の大変さや、お母さん一人ひとりの育児への考え方に触れることができました。これからは、お母さんの負担を考慮し、子どもの個性を大切に看護をめぐって学びを深めていきたいです。



専門実習前技術練習を終えて | O.M

夏休みが終わり、いよいよすぐ専門実習が始まるのだということを痛感しました。練習では、清拭の援助を行いました。ドレーンの挿入や、点滴、術後の創部など、様々なことに留意しながらの清拭となり、いざ実践してみると自分でイメージしていたものよりもはるかに難しく、注意点を再度確認することができました。座学での学びも大切だと思いますが、実際に経験することで自分のものになると思うので、これから始まる半年間の実習では、今まで座学で勉強してきたことを形にできるように励んでいきたいです。新型コロナウイルスが猛威を振るうこの時代に、実習ができる恵まれた環境にあることに感謝し、今後の実習に取り組んでいきたいです。



看護過程から得た学び | N.S

3年生になってから、看護過程の講義が本格的に始まり、模擬患者の事例を用いた演習をグループで取り組みました。演習を通して、自分たちの知識不足、視野の狭さを再認識しました。また、グループワークを通して自分たちの考えをまとめる難しさ、他者に伝える難しさを体感しました。2年後期、3年前期の看護過程の講義から、看護過程を展開する目的は、患者さんまつわる情報をもとに、患者さんに必要なケアは何かを判断し、そのケアを患者さんに合った方法で実施することであり、看護過程とは患者さんにあった適切なケアをするためのツールであると学びました。これらの学びを9月からの専門実習に活かし、患者さんに対しより良いケアを行えるよう頑張りたいです。



就職活動 | N.R

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、就職活動も制限され、不安を感じていました。しかし、自分自身で情報を収集し、友人や先生方に相談をしながら自分に合う病院選びを行うことで、自分の看護師像を改めて見つめ直すことができました。また、オンラインでの面接対策として、友人とzoomを利用して練習を行うことで、本番同様の緊張感を持ちながら準備を整え、試験に臨むことができました。コロナ禍であり、不自由なことも多くありますが、この環境であったからこそ養えた能力も多くあります。今後も友人と切磋琢磨し、先生方のお力添えのもと、国家試験に向けて努力していきたいです。



4年生

オープンキャンパス | I.A

今年の7月、2年ぶりに対面式でのオープンキャンパスがありました。私は、学生生活相談のブースで、高校生の方と看護学科の紹介をメインに、学校生活や入試に関する話をしました。どの高校生も熱心に話を聞いて下さり、中には、メモ帳に質問項目をたくさん準備して質問してくださる方もいて、時間になるまで話が盛り上がりしました。このオープンキャンパスを通して、自分たちの学生生活を振り返ると共に、看護学科の良い所を見つけ直す機会にもなりました。是非、多くの高校生の方々に、久留米大学医学部看護学科への進学を考えてもらえたらいいなと思います。

今年の7月、2年ぶりに対面式でのオープンキャンパスがありました。



総合実習を終えて | M.A

大学生活で最後となる総合実習では、今までと違った形態で実習が行われました。これまでは、受け持ち患者さんは1人だけでしたが、今回は複数人の患者さんを受け持たせていただきました。より多くの患者さんと関わらせていただくことの難しさや、楽しさを感じ、コミュニケーション能力も養うことができました。また、看護師さんと共に行動する時間が多く、看護師という職業について、より身近に学習させていただくことができました。この学びを、今後も活かして素敵な看護師になりたいです。

